

平成28年度(公社)全日本トラック協会青年部会  
全 国 大 会

【大会テーマ】

～ とともに歩もう 新しい未来へ ～

開催日時 平成29年2月24日(金)  
14時00分～19時00分

会 場 京王プラザホテル  
研修会 5階 コンコードボールルーム  
交流会 4階 花

東京都新宿区西新宿2-2-1

電話 03-3344-0111(代表)

主 催



公益社団法人

全日本トラック協会

# 平成28年度(公社)全日本トラック協会青年部会全国大会 プログラム

## 第1部 研修会

1. 開 会 14:00

2. 開会挨拶

公益社団法人 全日本トラック協会青年部会 部会長 山本 明徹

3. 会長挨拶

公益社団法人 全日本トラック協会 会 長 星野 良三

4. 来賓挨拶

自由民主党青年局長 鈴木 馨祐 殿

国土交通省自動車局貨物課長 加藤 進 殿

5. 「青年経営者等による先進的な事業取組に対する顕彰」

授与式・受賞者事業発表 14:30~15:00

6. 高等学校への車両寄贈式 15:00~15:10

7. 平成28年度青年部会活動報告 15:10~15:30

(休 憩) 15:30~15:45

8. 研修 15:45~17:15

①講演 15:45~16:25 (40分)

「協力雇用主の活動について」

講師：特定非営利活動法人福岡県就労支援事業者機構

理事 野口 義弘 殿

②パネルディスカッション 16:25~17:15 (50分)

「トラック運送業界における人材確保対策について」

○コーディネーター：

日本PMIコンサルティング株式会社 代表取締役社長 小坂 真弘 殿

○パネリスト：以下4名

三福運輸株式会社 代表取締役社長 五月女 奈緒美 殿（新潟県新発田市）

丹羽商株式会社 専務取締役 丹羽 悟 殿（愛知県豊田市）

道前運送株式会社 代表取締役社長 森川 公 殿（愛媛県西条市）

特定非営利法人福岡県就労支援事業者機構 理事 野口 義弘 殿

（福岡県北九州市）

9. 閉 会 17:15

第 2 部 交流会 17:30

1. 開 宴

2. 乾 杯

3. 閉 宴 19:00

## 平成28年度青年経営者等による先進的な事業取組に対する顕彰受賞者（5者）

受賞区分	申請協会	受賞者名	事業の種類	事業の概要
金賞 (100万円)	東京都	一般社団法人東京都トラック協会 足立支部青年部	安全対策	【事業名称】 足立式ドライバーコンテスト 【事業内容】 ドライブレコーダー画像とGセンサー解析ソフトによるドライバーコンテストを行うことで、ドライバーの安全運転教育と共に、事業用ドライバーとしての誇りと自信を持った真のプロドライバー育成を行っている。
銀賞 (70万円)	群馬県	一般社団法人群馬県トラック協会 青年部会	安全対策	【事業名称】 危険箇所・休憩場所等情報提供事業 「ドラマップ群馬」 【事業内容】 各社に蓄積された危険箇所等の情報をインターネットで公開し、ドライバーの危険に対する認識を向上させている。また、ドライバーが休憩する際に利用できる道の駅等のトラック車両の駐車スペース情報を公開し、違法な連続運転の抑止に繋げている。
銅賞 (50万円)	石川県	一般社団法人石川県トラック協会 青年部会	社会貢献 その他(業界の 地位向上)	【事業名称】 加賀飛脚再現事業 【事業内容】 石川県の伝統文化である「加賀飛脚」を学び、再現することにより、運送事業の責任と誇りを再認識するとともに、各種メディアを活用し、運送業界のPRに努めた。併せて石川県の伝統行事に協賛することにより地域貢献を図っている。
銅賞 (50万円)	宮城県	有限会社山藤運輸	収益性向上 安全対策 環境対策 社会貢献 その他(雇用対策、 子供たちへの環境教育と 物流教育)	【事業名称】 『地域密着の運ぶ』を軸としたバイオマス関連事業 【事業内容】 南三陸町が運営するバイオガス施設に係るインプット(余剰汚泥運搬)、アウトプット(液体肥料の運搬)、液体肥料の撒布事業を行っている。さらにバイオガス事業や地域の運送事業の内容を地元幼稚園、小中学校で環境・物流授業として実施している。
銅賞 (50万円)	東京都	川崎陸送株式会社	収益性向上 環境対策	【事業名称】 ドライバーの待ち時間を解消する為の「予約システム」の導入 【事業内容】 ドライバーに同システムで到着時間帯を予約してもらい、予約に従い、倉庫側が受入準備をして手待ち時間の削減、トラックの回転率向上を進めている。

### ※本顕彰について

本顕彰は、全日本トラック協会会長代行(中央運送(株)社長)鈴木元徳氏(故人)の遺産を、平成6年より旧運輸省が公益信託基金として運用し、陸上交通において優れた業績をあげた個人、団体に授与されてきた。その後、平成14年度末に同基金が全日本トラック協会に移管され、平成15年度より新たに「鈴木賞」として同様の顕彰を行うとともに、平成24年度より「青年経営者等による先進的な事業取組に対する顕彰」を開始、青年経営者等が行う先進的で他のものの模範となる取り組みに対し、顕彰金が授与されている。